

世界へ松濤中生 (Achieve a role in the global community)

自立 (Grow) 尊重 (Respect) 創造 (Create)

学校だより

■HP Address

<http://academic1.plala.or.jp/shoto/>

■発行
渋谷区立松濤中学校
渋谷区松濤1-20-4
■代表電話
TEL 03-3469-2451, 2452
■発行責任者
校長 斉藤 茂好

NO. 4

7/1

平成27年度

今月の内容

【1面】

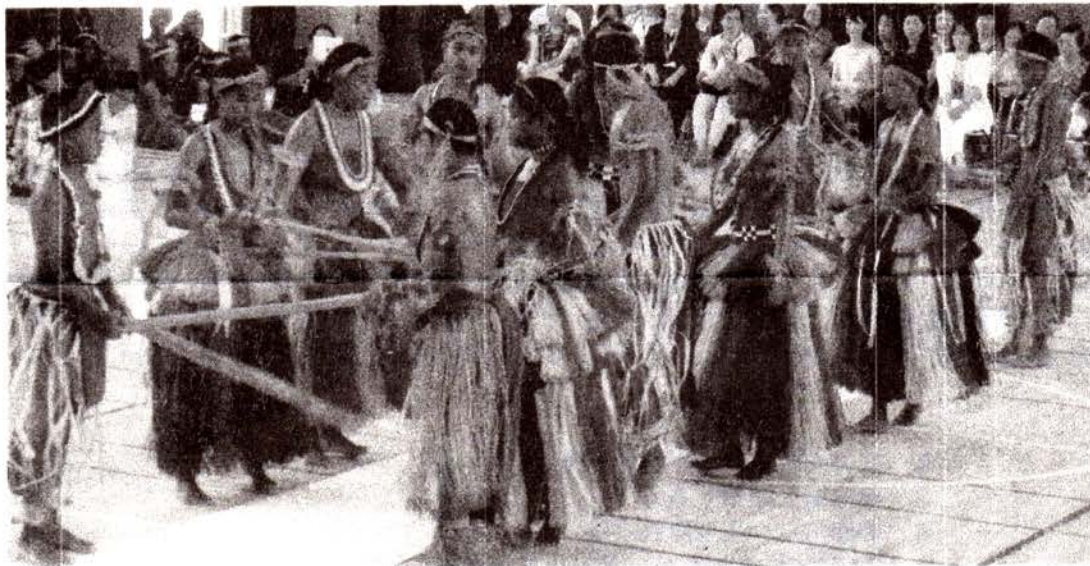
■PHOTO SKETCH
Micronesia

■校長メッセージ

Unsung Leader

【2面】

■学ぶ意欲
社会を明るくする運動



Unsung Leader

松濤中学校長 斉藤茂好

4月以来、修学旅行、運動会、ミクロネシア文化交流会、山中移動教室と、目白押しの行事がいずれも成果を手にとりました。いずれの行事も生徒の皆さん一人一人の意欲と協力があって初めて成り立った行事でした。世の中の多くのプロジェクト（仕事）やイベント（行事）の成功には、リーダーの存在が大きく関係するといわれています。しかし、プロジェクトやイベントを真に成功させるためには、リーダーという特定の個人によらず、参加する他の大勢の一人一人の協力に大きく依存しています。

Unsung Leader: アンサング・リーダー（讃えられていないリーダー）という言葉があります。日本語で言う「縁の下の方持ち」でしょうか。この目立たないけれども“成功”に欠かせないアンサング・リーダーの多さこそが、集団の質を決めます。なぜなら、自覚なしにアンサング・リーダーにはなれないからです。今、必要とされていることは何か？どんな行動が求められているか？自分の立場は？そして私には何ができるか？それを自覚し、言葉や行動で示せる者だけが、アンサング・リーダーになれます。求められる資格は、運動ができるとか、勉強が得意とかの能力の有無ではなく、やる気と配慮（思いやり）です。そして、人を支えた経験は、人生の中でやがて必ずやってくる本当のリーダーシップをとらなければならない時に、初めて役に立ちます。そのような意味では行事の実行委員に求められるのも、目立たない、人の嫌がる困難なことを率先して引き受けるアンサング・リーダーとしての行動です。

そんなきれいごとを言ったって、目立たなければ評価されないんじゃない？私自身、そんな風に世の中を斜めに見ていた反抗期（中学2年～3年）がありました。しかし、今はそんなことはありませんとはっきり否定できます。何故なら、学校の求める価値は才能ではなく、人間性の成長に重きを置くからです。ですから行事が終った後の先生方が誉めることは、クラスで、学年で、いつも陰で支えた生徒のことです。もちろん実行委員についても、先生

方が感動したと話が盛り上がることはありますが、その時の内容はみんなの前で活躍した行動ではなく、遅くまで残ってみんなが敬遠することを進んでしていたなど、陰で支えた努力の様子です。努力は人に認められるのが目的ではありませんが、人のためにした努力は必ず認められ、報われます。そして、将来、真のリーダーとなれるのは、陰で行われている人の努力を理解できる人間だけです。

今後の学校生活でも、生徒の皆さんの「一生懸命」を楽しみにしています！

学 ぶ 意 欲

生徒の学習力、つまり、学ぼうとする意欲の不十分な子どもをどうやって学ばせるか？そのために楽しく分かりやすい授業を求める声がありますが、それは生徒の楽しもう、分かろうという気持ちに伴わなければ応えることはできません。授業は教える者と学ぶ者の立ち会いです。気が合わないとどうにもなりません。学ぶ者の意欲を喚起するためには、動機付けというプロセスが必要となります。動機付けといえは聞こえはいいのですが、端的に言えば、「わかった！」という喜びを感受するための前提となる学習環境を整備することと、学習習慣を身に付けさせることです。家庭での学習時間（2時間）はもとより、学習力を身に付けるためには、以下の5点が重要であると考えています。

1. 自分から進んで学習する力
2. 繰り返し学習する力
3. わからない事を解決する力
4. 苦手な事でも克服しようとする力
5. 学んだ事を日常に生かす力

よいと分かっている、しなければならないことかもしれないが、別に自分がしなくても…、それが逃げ道をこじ開けます。現状で間に合っているという思いがあるから、取りあえずは何もしないのです。爪で石を刻むようなものです。子どもを取り囲む、学校と家庭各々が小さな知恵を持ち寄り、刺激を与えることが変化と改善の活力となります。そんなことは他人に任せておけばいい、自分は関係ない、誰かするだろうでは、事態は沈滞し活路は見いだせません。今、社会では、にわかに学力不足が、かまびすしく叫ばれるようになりました。ことさら新しい事態などではなく、放置できない状況になってしまったということに過ぎません。かつてに比べて、子どもの学びの楽しさ、学びの面白さに対する感性がほとんど未開拓です。試験ができなくても、みんなができないからと妙に安心しています。最終的には先生や親が何とか対処してくれるだろうと高をくくっています。大人になるとは自分で考えることができるようになるということです。世間の風潮に従ってもそれは無駄足です。風潮になった知恵は既に賞味期限が切れた知恵だからです。

自分で考える、それが学びです。そして、学力とはつけてもらうものではなく、自らつけるものです。

第33回社会環境を明るくしよう渋谷区民のつどい (渋谷地区大会)

来る7月4日(土)リフレッシュ氷川にて、2年生菱倉真郁さんによる「助け合うこと」と題する意見発表、並びに吹奏楽部の発表も予定されています。本校の生徒の活躍場面を、是非、ご覧ください。